

## 6 CDL annex Salon 「デザインプロジェクトアフターパーティ」



主催：鳥取大学地域価値創造研究教育機構  
協賛：日本財団鳥取事務所

「デザインプロジェクト」公開講評会後には、学生のアイデアからイメージを膨らませたアフターパーティを開催。鳥取市内のお弁当屋Bentoさんのおにぎりとオードブルを囲んで、「学生が関わること」「現職に就きかけ」などの話題で学生と社会人が楽しく交流しました。鳥取大学JAZZ & FUSION研究会と学生にぎわい創造プロジェクトの有志による音楽ライブもあり、賑やかなひとときを共有しました。

## 7 おわりに：とりぎん文化会館および周辺エリアの賑わいづくりに向けて

### 【共有しておきたいポイント】

「デザインプロジェクト」公開講評会から見てきた共有しておきたいポイントは以下のとおり。  
今後のまちづくりに学生が参画する契機となれば幸いです。

- ① 学生を含む若者や子育て世代が「訪れる理由」の創出
- ② ガラス張りのレストラン跡地を、情報が集積し交流が行われる玄関として「見える化」
- ③ 文化会館コンサート等のプレ・アフターイベント開催で文化的な関心の底上げ
- ④ 中庭等の外部空間を活用したイベント開催で、学生を含む新たな人が関わるきっかけづくり
- ⑤ 中庭等の外部空間のイベント利用・日常利用を促進する空間整備
- ⑥ 学生が訪れたいくなる、住みたいくなるまちづくり(学生活動の拠点化と、近隣に学生の住まいの整備)
- ⑦ 学生と社会人が交流して学び合える機会の創出
- ⑧ 学生でも気軽に利用できる価格帯の飲食物の提供
- ⑨ 文化会館と周辺施設の連携に学生も加わり、いろんなかたちで人を巻き込む機会をつくる

### CoRE 地域価値創造研究教育機構 について

鳥取大学は「地域に根差し、国際的に飛躍する大学」をビジョンに掲げ、特に人口減少や過疎化の進む地域の創生に貢献することを目指して戦略的に取り組んでいます。そのような取り組みの中核組織として平成29年10月に設置された地域価値創造研究教育機構では、学内における地域参加型研究プロジェクトや地域実践型教育活動を支援する地域価値創造研究教育推進プログラム(公募事業)や、「鳥取大学CoREラジオ」の放送、「鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ(CDL)」の管理運営などを行っています。

### 地域連携PBL について

地域価値創造研究教育機構のミッションのひとつとして、学生が地域に関する知識や関心を高め、実践的なスキルを身に付けることのできる教育活動として、地域課題解決に学生グループが主体的に取り組む課題解決型学習(problem/project based learning, PBL)を始めとした地域実践型教育の全学的展開を推進しています。

地域連携PBL授業「デザインプロジェクト」は、全学共通の教養科目であると同時に、COC+地域創生推進プログラム科目としても位置付けられています。

### CoRE 地域価値創造研究教育機構



【発行】鳥取大学地域価値創造研究教育機構

【協力】鳥取県地域づくり推進部文化政策課、鳥取県立図書館、鳥取県立公文書館、(公財)鳥取県文化振興財団、日本財団鳥取事務所  
【お問い合わせ】鳥取大学地域価値創造研究教育機構 企画管理室 TEL:0857-31-6777 FAX:0857-31-6708 [2020.2発行]

## CoRE Report

令和元年度後期 全学共通・教養科目 主題(世界と地域) / COC+地域創生推進プログラム科目

# DESIGN PROJECT

## とっとり デザインプロジェクト アイデアブック2

## SHOTOKU-CHO 2030

### 1 とっとりデザインプロジェクトについて……01

はじめに  
授業内容  
指導者紹介

### 2 課題「SHOTOKU-CHO 2030」……02

課題設定の主旨  
対象地域について

### 3 学生提案……03

- ①「文化芸術活動の拠点化 ～知識が集積する場所へ～」
- ②「学生の集う町SHOTOKU」
- ③「学生と社会をつなぐ店 おにぎりから“にぎ”おいを」

### 4 講演『まちの文化を育む「人おこし」の仕掛け』綾野 昌幸氏……05・06

講演概要  
質疑応答

### 5 参加者の声……06

公開講評会アンケートより  
受講学生の感想

### 6 CDL annex Salon 「デザインプロジェクトアフターパーティ」

### 7 おわりに：とりぎん文化会館および周辺エリアの賑わいづくりに向けて

# 1 とっとりデザインプロジェクトについて

## はじめに

本冊子は、鳥取大学「デザインプロジェクト」の授業成果をまとめたものです。令和元年度は「SHOTOKU-CHO 2030」をテーマに、とりぎん文化会館および周辺エリアの賑わいづくりに係る問題に挑みました。そして、令和2年1月29日(水)にとりぎん文化会館2階第二会議室で開催した公開講評会で学生が成果発表し、まちづくりの関係者や市民の方々と意見交換を行いました。

## 授業内容

本授業は、地域課題をテーマとしてチームで行うプロジェクト学習を通して、問題を分析して目標を設定する力、課題解決に向けて地域資源に価値を見出す力、グループで解決策を取りまとめる力、考えを人に伝えるために表現する力を養うことを目的としたものです。

10月から11月までの第3クォーターでは、地域の現状に係るレクチャー、学外現地調査とヒアリング、文献調査を経て、問題分析と目標設定を行いました。そして、12月からの第4クォーターでは、グループで課題解決策を検討し、専門家アドバイザーや行政関係者を交えた中間

これら一連の内容を一冊にまとめてあります。本授業は、鳥取県地域づくり推進部文化政策課、鳥取県立図書館、鳥取県立公文書館、(公財)鳥取県文化振興財団の皆様のご協力を得て実施することができました。加えて、公開講評会で貴重なご意見を下さった参加者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



講評後、最終的にパワーポイントの発表資料にまとめて公開講評会で発表しました。

## 指導者紹介

担当教員  
全体の進行・指導・講義等

成清 仁士 准教授

鳥取大学地域価値創造研究教育機構地域連携PBL推進室長前・鳥取市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー博士(工学)

講評・講演

綾野 昌幸氏

伊丹市都市活力部 参事 併  
教育委員会事務局生涯学習部 参事 (総合ミュージアム構想担当)  
館長を務めた伊丹市立図書館「ことば蔵」が”Library of the year 2016大賞”受賞  
共著に「100円商店街・バル・まちゼミ」(学芸出版社、2012年)、「都市商業とまちづくり」(税務経理教会、2005年)

専門家アドバイザー  
指導・助言

野崎 俊佑氏

建築家  
NOZa-maru、一級建築士

八頭町出身。2004-2008(株)坂倉建築研究所、2008-2016東京海上日動ファシリティーズ(株)、2016-2018有建築研究所。2018に独立、広島と鳥取の二地域を拠点に活動。2019年より、鳥取市中心市街地活性化協議会プロジェクトマネージャー。

小谷 真之介氏

グラフィックデザイナー  
(有)小谷デザインオフィス CEO

鳥取市生まれ。2004-2009東芝EMIデザインオフィス(株)でデザインを担当。2010にUターン。トリの話しbaという自主企画をまちなかで5年間開催。

# 2 課題「SHOTOKU-CHO 2030」

## 課題設定の主旨

平成30年4月、鳥取市役所本庁舎の移転が目前に迫る危機感から第1回「とりぎん文化会館および周辺エリアの賑わいづくりを考える懇談会」(事務局:鳥取県地域振興部文化政策課)が開催され、これまで賑わいのあり方や対策について議論が深められてきました。これを契機として、とりぎん文化会館の中庭を活用するイベントが実験的に行われたり、外部空間の活用を促進する利用規約が新たに策定されたりと

成果が積み上がってきています。そこで、今年度のデザインプロジェクトでは鳥取市中心市街地の中でも文化施設が集中するとりぎん文化会館周辺エリア(鳥取市尚徳町)を対象地域として、テーマを「SHOTOKU-CHO 2030」としました。受講学生は対象地域が抱える問題を分析し、学生ならではの視点を織り交ぜつつ対象地域の将来像を想像して課題解決策の提案を試みました。

## 対象地域について



江戸時代中後期: 藩校「尚徳館」



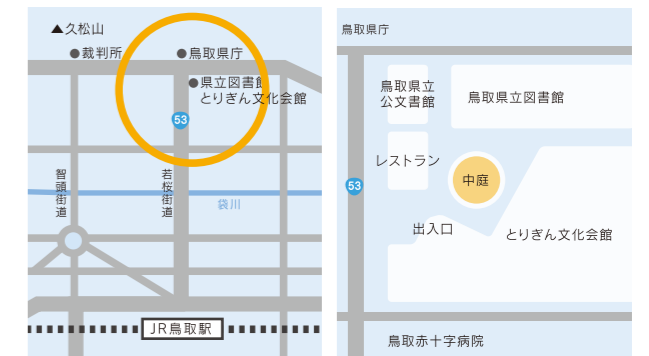
明治時代~1949年: 師範学校



1949年~1985年: 鳥取大学(本部、附属小中学校)



1993年~: 文化会館・図書館・公文書館



## 近年の取り組み

2018.4

第1回「とりぎん文化会館および周辺エリアの賑わいづくりを考える懇談会」(事務局:鳥取県地域づくり推進部文化政策課)

2018.10

有志によりドイツ・エアランゲン等視察  
(協賛:日本財団鳥取事務所)

2019.5

Facebookページ「Shotoku-cho 101」開設  
(有志でエリアトピックスを発信)

2019.5

実験的な中庭活用 高松平蔵氏講演会  
「ドイツ エアランゲンに学ぶ  
オープンスペースの楽しみ方」  
(主催:日本財団鳥取事務所)



2020.1

文化会館屋外スペース貸出利用の開始

### 3 学生提案



#### ①文化芸術活動の拠点化 ~知識が集積する場所へ~

現状の問題を、活気がない、外から見えない、行く理由がない、何をしているのかもわからないと分析。幅広い世代の利用を促すため、文化会館と周辺施設が連携して、ガラス張りのレストラン跡地を情報が集積し交流が行われる玄関にと提案。コンサート等を事前学習できる関連イベントを行うことで、初めての人や学生にも魅力を伝える。コンサート後の密な交流会と合わせて、魅力をしっかり感じることで満足度もアップ。この企画づくりに学生が参画することで、図書館での文献収集や会議室での打合せ等で利用機会が増える。

**1** 文化芸術活動の拠点化  
~知識が集積する場所へ~

地域学部 高木基伸  
工学部 前田宗一郎  
工学部 中土野隆

**2** 初めに

- 幅広い世代の人々が利用する
- グリーンハウスの跡地の活用によりとりぎん文化会館周辺の施設とともに伸ばしていくものに
- とりぎん文化会館の玄関に

**3** 問題分析

可視化 ・ 情報発信 学生の勉強の場

**4** イベントの情報発信 (平常時)

- フリースペースとして誰でも自由に出入りできる空間
- ボードとりぎん文化会館周辺のイベントの情報が書き出す
- 展示場の肌これから行われるイベントや行われたものに関する展示物などを置く
- 帰って読み書きするための机

**5** 1. 事前学習等のイベント (コンサートの場合)

- 開催の目的: 分野に関心をもつイベントの場を創出してもらう
- 内容: 事前学習会 (どんな魅力があるのか、どのように楽しむのか、アーティストの音楽の歴史など) そのほか、トークセッション、質疑に際する心も深く (質疑の準備、発表、セッション、質疑に関する機)
- 予想される結果: より多くの観客 イベントをより楽しんでもらえる

**6** 2. 懇談会の場所としての利用 (コンサートの場合)

- 開催の目的: 新しい学びの場の創出
- 内容: 狭いスペースならではの懇談会のようなイベント (より踏み込んだ質疑が可能)
- 予想される結果: イベントの満足度の向上 学生の勉強

Q1 プレ・アフターイベントは、いいアイデア。どういう人がコーディネーターをしたらいいと思う？

A1 主な運営は、県の方など。そこに学生が加わっていく。さらに、プロの方や地域の方を交えて企画するとよいと思う。

#### ②学生の集う町SHOTOKU

文化会館周辺に学生の姿が見えないことに対して、駅周辺に比べて学生が求める機能や施設が少なく、訪れるきっかけも無いと分析。学びを求める学生ニーズから3段階で提案。まず音楽系サークルが参加する中庭を活用した合同ライブ開催で人の流れをつくり、その後に学生が企画し運営するカフェを設置し拠点化を図る。10年経つ頃には中庭にウッドデッキを設置し、南池袋公園のようにカフェがワークショップやイベントを開催。近くの市役所跡地にはシェアカー付きの学生寮を建設し、学生が地域と関わる機会を確固としたものに。

**1** DESIGN PROJECT  
~学生の集う町 SHOTOKU~

グループ②: 田中結希 栗原龍 重田広典

**2** 現状

- 学生の姿が見られない
- にぎわいもあるようには見えない

学生を呼び込み 新たなにぎわいを作りたい

**3** 課題

そもそも尚徳町を訪れる きっかけがない

**4** 私たちが考えるプランの流れ

1. 学生が集まる空間づくり  
2. 人の流れの形成に伴って出来ること  
3. 利益の安定、サービス充実

**5** いますぐやろう！  
学生が集まる空間づくりのコンテンツ

現状大学サークルのライブにぎわいで楽しいものだがサークルと関わる機会がないため身内ライブになりがち

大学サークル合同ライブを開催する

イメージは結構中の小さな文化会館、音楽系サークルによる演奏、ダンス部による演奏、料理サークルによる演出、研究発表発表 etc.

周辺の高校生・地域の人も巻き込めると面白そう

**6** こんなふうになれば面白い  
人の流れが形成されとできること

学生が企画を行うcafé

カフェの経営企画に学生もアドバイザーとして参加

企業のメリット: 学生の柔軟な意見を取り入れられる  
学生のメリット: 実践的な社会勉強になる

知るカフェの環境づくり

多数の企業が学生と交流するために共同出資で運営するカフェ  
企業は新卒学生をリクルートできるメリットがある  
学生は社会人と交流できる/インターン経験もつめる

**7** こんなふうになれば面白い  
人の流れが形成されとできること

学生が運営を行うcafé

学生が抱く飲食店経営の魅力

- 経営・接客の両面から社会勉強ができる
- コミュニケーション能力が養われる
- 社会人の一歩手前という立場で思う存分自身の力を発揮できる

**8** 10年後の尚徳町  
利益の安定・サービスの充実

池袋南公園のような中庭整備

池袋南公園カフェが学設された会館であり人々が交流することを前提に作られている

異なる世代の人たちが交流できカフェが主体となって様々なワークショップを行っている  
一部が芝生で階段状にウッドデッキが設置されておりイベントもしやすい

**9** 10年後の尚徳町  
利益の安定・サービスの充実

交通手段として利用し、大学生が地域と関わる

Q1 南池袋公園は、とりぎん文化会館の中庭よりも広い。文化会館の中庭は、どんな利用をしたらいい？

A1 池袋では、広場隣りにあるカフェが地域の人と連携して料理のワークショップなどを行っている。こちらでも、そのようなイベントができれば、そこに学生サークルも参加できたらいい。

Q2 空き家を活用したシェアハウスなどは、住んでみたいと思う？

A2 鳥取駅南にシェアハウスがあって、楽しそう。学生に情報が届いていないので、知らせていけば住みたいという人はいると思う。

#### ③学生と社会をつなぐ店 おにぎりから“にぎ”わいを

文化会館周辺には離れた場所に住む学生を呼び込むニーズが無いと分析。学生が求めるのは社会人との交流や安くおいしい店であるという切り口から、社会人と交流ができるおにぎり専門店を提案。おにぎりは話をしながらでも手軽に食べることができ、高校生も手軽に買える。ガラス張りのレストラン跡地は中の様子がよく見えるので途中参加もしやすく都合がいい。学生はここを訪れることで様々な人と触れ合い、世界観が広がり、人脈もできる。おにぎりはイートイン、テイクアウトの他、文化会館と周辺施設に限りデリバリーする。

**1** 学生と社会をつなぐ店

「おにぎりから“にぎ”わいを」

工学部 社会システム工芸学部 一 中 尾崎 尚徳  
工学部 社会システム工芸学部 一 中 伊藤 俊

**2** 問題分析

- 行かない理由
- 県立図書館→鳥大に付属図書館がある
- 鳥大文化会館→利用方法が分からない
- 公文書館→???

結論:鳥取から30分かけて行くと思うきっかけが無い!

**3** 学生のニーズ

社会経験 → 社会人との交流

体験 → リピーターのつく店

**4** おにぎり交流会

イベントの流れ

- 1.鳥大文化会館にて講演会
- 2.おにぎり作り交流会
- 3.参加者と専門家の交流会

**5** おにぎり専門店

- 話しながら手軽に食べられる
- 様々なジャンルのおにぎり専門店がない
- おにぎり専門店が気軽に買える
- おにぎり専門店の提案
- 地域のおにぎり... 各種の名産を使ったおにぎり

**6** 鳥取のおにぎり

- つくばに寄り
- ハタハタ
- 海苔
- モロコシ
- ペニスウイニ
- 高松屋
- どうぶつ
- モヤシ

**7** おにぎりレシピア

- 地域とおにぎりを通じて関わりを持つ
- どんなおにぎりが欲しいか書いてもらえらるコーナーを設置 → 高松屋で 企画・販売!

**8** 店舗形態の強み

イートイン + テイクアウト + デリバリー

おにぎりに ビジネス気分

文化会館内 サービス

**9** 店舗形態の強み

- 「おにぎり」という選択
- 食べやすい × 遊びやすい
- バリエーション
- 大人数でも対応可能
- 文化会館でのイベント後もリバイブ

Q1 学生が来ない理由を解消するには?おにぎり屋さんどうつながる?

A1 学生がここまで来る動機をつくるために、社会人との交流機会を欲しているというニーズを満たすためのイベントの開催を考えた。



## 4 講演『まちの文化を育む「人おこし」の仕掛け』綾野 昌幸氏

### 講演概要

いろいろなかたちで、人を巻き込む  
機会をつくるのが大事！

#### ○自己紹介

2011年伊丹市図書館「ことば蔵」立ち上げ。現在、様々な文化施設が連携する総合ミュージアム構想担当(伊丹市中心市街地も尚徳町と同様に文化施設が集積)

#### ○まちづくり1.0 ハード整備

伊丹市図書館「ことば蔵」=公園のような図書館  
三軒寺前広場=道路敷(伊丹市管理)をイベント会場として活用⇒スロープ設置、照明増強、電源ボックス設置、ベンチ設置

#### ○まちづくり2.0 ソフト事業の展開

今まで来なかった人を呼び込むことを目指して、図書館一階フリースペースを活用。やりたいことの会議の場、「運営会議」を開館前から開催。ここから多くの市民企画。英語で子育て交流会、大学生による受験生向けプチ講座、プログラミング講座、子どもメイクアップ講座、ゆるキャラ総選挙、風船がどこまで飛ばしかしらべよう、紅白歌詞合戦、ノンアルカクテルパーティ、など  
三軒寺前広場でも、夜市、星見会、朝マルシェ、音楽ライブ、3×3バスケフェス、など

#### ○まちづくり3.0 企業等「連携」

企業連携すると、自治体にはないPR力、協賛も。企業にもことば蔵や三軒寺前広場でやるメリットを感じてもらって。  
卵やウサギをモチーフにした「イースターまつり」で周辺店舗スタンプラリー、日本酒とビールで周辺店舗スタンプラリー「秋の夜長の酒めぐり」、商店街ポスター展、美術館・林明子原画展とタイアップした子ども向け周辺店舗おつかいイベント「はじめてのおつかい」

#### ○まとめ

まちづくりに終わりはない  
共通のビジョンを持つ  
継続するシステムづくり→仕組みの確立→無理ない範囲で→さらなる担い手をスカウト  
やっぱり「ユルく楽しく！」\*まちにちょっとだけ付加価値を\*  
周辺の公共施設と連携 MLA(ミュージアム、ライブラリー、アーカイブ)の専門家  
周辺店舗、イベント、企業、学校、近隣都市と連携を。

#### ○さいごに

まちの文化を育む「人おこし」に向けて。たくさん人を巻き込んで賑わいをつくるには？  
・使いやすい活動の場を提供する  
・運営会議など、見せられるような会議の場をたくさん  
・一緒にイベントをつくりあげる。絆をつくる。  
・つながりを持つ機会をつくる。人脈を広げる。学生は社会人に上手に頼る。  
・フリースペースや広場空間でのイベントを「見せる」。それに向けた会議の場も「見せる」ことでPRする。



#### ことば蔵運営会議

- 市民の方と、図書館職員で「やりたいこと」の協議の場
- 毎月第1水曜18:30から開催
- 毎回自己紹介あり
- ① 前回のふりかえり
- ② 前回以降に実施されたイベント紹介
- ③ ことば蔵職員の悩み相談
- ④ やりたいこと発表会
- その他にルールづくりなど



#### 自分がまちを好き！ できると **重要**

- まちを面白くしたい！
- 伊丹ってええとこやん！
- いいヒト多いやん！
- 人、連れてきたい！
- 歩いてほしい！遊んでほしい！
- できたら、ずっと住んでほしい！

## 質疑応答

Q1 「運営会議」がエンジンになっているように思った。どういう方が会議に参加しているのか。

A1 「運営会議」は、第一水曜6時半から8時まで開催。飲食自由なスペースで、ゆるい会議。図書館開館前からやっている。開館前は、参加してほしい人に一本釣りして声をかけた。その後、メンバーの入れ替わりもありながら20~30人が参加。毎回、新しい人も2~3人いる。こども会議は大人とは別に開催している。

Q2 「運営会議」について。会議を運営するスタッフの体制は？また、会議で出た企画を実行する体制は？

A2 開館前は、一本釣りした市民と一緒に立ち上げ。今は、図書館の交流事業担当が柔らかいスタンスで進めている。会議は参加者の企画発表を聞くような内容で、楽しく、準備もあまりない。企画実行に対しては、会議参加者が自分の得意なことで協力してくれたりする。企画を実現するのは、市民が主役。職員は運営を支援している。

Q3 図書館がまちづくりの活動をされている。本と関係ない活動に図書館が取り組むことに問題はなかったのか。

A3 本に関係ないような企画もあったりするが、図書館でやる意義は大事にしている。テーマについてミニ講演会を実施したりして、学びの要素を加えることに気を配っている。イベント企画者がどんな本を読んできたか話してもらったりも。少なくとも、テーマに関連した図書を紹介するようにしている。

Q4 図書館フリースペースの平常時はどんな感じ？

A4 昼間には高齢者や主婦が、時にはランチを食べながら仲間ミーティングをしたり。夕方くらいから子どもたちが来て、カードゲームしたり勉強したり。そこへ時々職員が軽く声掛けてコミュニケーションをとっている。

## 5 参加者の声

### 公開講評会アンケートより

- ・どうしたら実現させられるか、どう実現するかという問題に対して、今後一緒に考えさせて頂ければと思います。
- ・学生さんたちが暮らしたくなるような楽しい街・地域づくりを、地域の方々・企業・学生さんたちと協力しあって進めて行きたいと、今日の学生さんたちの思いを聞かせていただいて強く感じました。
- ・学生以外にも、子どもがキーとなる。子どもが来ると、親も来る。子ども向けのイベントも必要と思う。
- ・課題分析の仮説に至るまでの考え方がもっとプレゼンにあるとより分かり易いものになると感じました。
- ・今回の発表をゴールではなくスタート地点と考え、それぞれの専門分野からまちづくりについて考えてくださる方がいると嬉しいです。

### 受講学生の感想

Q1 この授業を通して、人間力は身につきましたか？

- ・何も接点のない人と何かを作りあげるの初めてだったが、苦労しながらも人間力は身についた実感がある。
- ・人と話すのが得意ではなかったが、ランダムに組まれたグループ活動や大きな会場での発表が自分の力になっているのではと思う。
- ・課題を共有するメンバーとともに、外部の方とも接点を持っているようなアドバイスを頂けたことで、ひとつの課題に対して突き詰めていくことの大事さや、いろんなプロセスの方法があるんだということを知れて、身になったかなと思う。
- ・人と物事について話し合う中で、多面的な見方が身についたかなと思う。
- ・人と話してみたり地域に関心を向ける中で自分にも自信を持てるようになって、地域行事に参加したり学外の方と話ができるくらいには成長したと思う。
- ・大学生活は学生の中で完結してしまうことが多かったが、社会でも活躍する先生や学外講師の方と関わることができて、社会のことを学ぶという点で人間力が育まれたと思う。

Q2 地域への関心は高まりましたか？

- ・鳥取のことを全然知らなくて商店街は入りづらい感じがあったが、意外に面白い店がいっぱいあったので、探せば面白い店ってあるんだなと、大いに関心が湧きました。
- ・地域への関心は鳥取に十何年住んできてほぼ無かったが、授業を通して愛着というものが初めて出てきたのかなと思う。自分の地域についてももっと知って発信できるようになりたいと思った。
- ・地元の街と鳥取の街を比較したりして、賑わいの差って何だろうと考えるようになった。
- ・何気なく地域のイベントなどを見ていたが、実はその裏には運営や仕組みやニーズに応えるだとかがあり、そういった深いところまで考えられていることを知って、地域への関心が高まった。